

<白山の紹介>

白山の紹介

日本を代表する霊峰のひとつ、白山へようこそ。何世紀にもわたって、白山は日本最古の自然の聖地として自然愛好家や悟りを求める人々を魅了してきました。

歴史

白山の歴史は、伝説に包まれています。717年、泰澄（682～767年）という仏僧が白山登頂を成し遂げ、この山を霊峰として開山したと言われています。9世紀までに、参拝者のために三本の参詣道が作られ、参拝者の需要に応じた寺院や宿屋が山道沿いに建てられました。

山岳信仰に仏教と神道を取り入れた修験道という宗教の重要人物であった泰澄自身が示したように、仏教と神道は何世紀にもわたって平和に共存していました。あらゆる境遇の信仰者たちがこの聖なる山に参拝しました。

この状況は、日本の近代化が急速に進んだ明治時代（1868～1912）の到来とともに変化しました。日本政府がとった最も劇的な措置は、神道と仏教を厳格に分ける「神仏分離」です。神仏分離が進められた結果、仏教は強硬派によって弾圧されるようになりました。

しかし、この土地の神々を守りたかった白山の人々は、何世紀にもわたって山のあちこちに置かれていた仏像を破壊するかわりに密かにふもとの集落に運んで隠しました。「下山仏」（すなわち「山を下った仏像」）として知られるこれらの仏像は、白山山麓の二か所に安置されています。

20世紀を通して登山の人气が高まったため、この地域の登山道と山小屋は整備されました。白山国立公園は、自然環境保護のため1962年に設立され、1980年にユネスコの「人間と生物圏計画」（UNESCO Man and the Biosphere）の自然保護地に指定されました。

山に向かう

9世紀につくられた山道は現在も利用されています。これらの山道のおかげで仏教徒や登山者は3方向から白山に行けるようになりました。加賀禅定道は石川県を起点とし、越前禅定道は福井県から東へと続いています。美濃禅定道は、岐阜県から北に向かって白山へと続いています。

白山神社

各山道の入口で目にする白山神社は、登山者が登山を開始する前に立ち寄り、参拝します。白山比咩神社（「白い山の王妃の神社」の意）は、加賀禅定道の起点です。白山比咩神社は、日本全国に約2,700社ある白山神社の総本社でもあります。平泉寺白山神社は越前禅定道の入り口で、長滝白山神社は美濃禅定道の登山開始地点となっています。

霊峰と雪

白山信仰と呼ばれる白山にまつわる宗教的な伝統は現在も守り伝えられており、山麓の神社では年間を通じて多くの行事が行われています。

白山比咩神社は、年が明けてから最初に神社に参拝する「初詣」の人気スポットです。伝統的に、初詣は前年の無病息災を感謝し、新年の豊穰を祈る行事とされています。

白山には、世界の同緯度の他地域よりも雪が多く降ります。白山のふもとの白峰村では、約 6 メートルの年間積雪量があり、標高が高い場所では最大 10 メートルにもなります。この雪は登山や農業、林業の妨げになりますが、広範囲の地域にとって重要な水源となる恵みの雪でもあります。

登山シーズンは 5 月から 10 月までで、ピークは 7 月から 8 月頃です。年間約 5 万人の登山者が白山を訪れ、その多くは白山の最高峰である御前峰から日の出を見るため特別早起きをします。

白山の恵み

白山の気候や地形は、多くの生態系を育み、豊かな生物多様性を生み出しています。山麓から広がる森林は、ニホンザル、ニホンカモシカ、数種のイタチ、ツキノワグマなどの哺乳類の生息域です。空や樹上は、鳴禽類から希少なイヌワシを含む猛禽類に至るまで、鳥たちで賑わっています。

この場所ではシダや竹をはじめとする新芽などの山菜が豊富に育ち、地元のさまざまな料理に使われています。

白山からは、数多くの小川のほかに手取川、庄川、長良川、九頭竜川の主要 4 河川が流れています。これらの河川には様々な魚類が生息し、イワナ（*Salvelinus leucomaenis*、陸封型イワナ）やヤマメ（*Oncorhynchus masou*、サクラマス）などがその代表です。

これらの河川は白山のふもとの平地にある水田に雪解け水を供給し、また近隣の数県で水力発電に利用されています。活火山である白山は、地元の人々と観光客がともに入浴を楽しむ数多くの温泉の熱源です。

公園施設

白山国立公園の面積は 49,900 ヘクタールで、全域が自然環境保全を目的とする特別地域に指定されています。公園の約 36%が特別保護地区とされています。

最も大規模なハイカーと登山者向けの施設は、高くそびえる御前峰のふもとの宿泊棟を備える室堂ビジターセンターです。宿泊棟は白山比咩神社の境内の近くにあり、何百年もの間登山客を迎えています。現在、室堂は白山観光協会によって運営されており、登山客に国立公園内の宿泊場所および食事を提供しています。

自然保護

かつて、地元の人たちは、肉や毛皮のため、または薬として利用するために熊を狩っていました。しかし、1969 年以降、鳥獣保護法により公園内のほとんどの地域で動物の狩猟と捕獲が禁止されています。

国指定白山鳥獣保護区は、さまざまな生き物にとって安全な場所であり、カモシカ（*Capricornis crispus*）の保護において重要な役割を果たしてきました。戦後、頭数が激減したため、日本の固有種であるカモシカは厳重に保護される特別天然記念物に指定されました。現在、カモシカの個体数は増え続けているため、白山国立公園を訪れた際にはこの希少な動物に出会えるかもしれません。

2011 年に設立された白山手取川ジオパークには、白山山頂、手取川流域、手取峡谷が含まれます。白山手取川ジオパークの一部で恐竜の化石が発見されたことから、このジオパークは古生物学研究において重要な場所となっています。